

片頭痛について

みなさん、頭痛で悩んだことはありませんか？我が国の年間有病率 8.4%と報告されている身近な片頭痛についてお話していきます。



○片頭痛の症状とは？

片頭痛発作は、ズキンズキンと脈打つような拍動性の頭痛が特徴ですが、片側性・軽労作での悪化・光過敏/音過敏・悪心・嘔吐などの存在が診断のポイントになります。また、頭の片側だけでなく両側に痛みが出現することもあります。前兆のある場合とない場合がありますが、前兆症状（頭痛が生じる前、60分以内に起こる症状）の90%以上が視覚症状であり、キラキラした光・ギザギザの光（閃輝暗点）がみられるのが特徴です。他に、チクチクした感覚が体の一部に出現したり、感覚が鈍くなるような感覚症状などもみられます。

○片頭痛の原因は？

メカニズムは確定されていませんが、血管拡張・三叉神経の刺激・セロトニン（神経伝達物質）の関与など様々な説があります。また誘因は精神的因子（ストレス、睡眠不足）、内因性因子（月経周期）、環境因子（天候の変化、におい、音、光）、ライフスタイル因子（運動、性的活動、旅行）、食事性因子（空腹、脱水、アルコール、カフェイン）などのように様々あります。個人差があるため頭痛ダイアリーなどを用いて、どのようなきっかけでどのような頭痛が起こったかを把握すると、今後の治療や対策に繋がります。

○治療薬や予防薬は？

薬物治療は、発作を鎮める急性期の治療と発作予防の治療に大別されます。急性期の治療に用いられる薬剤として、アセトアミノフェン、非ステロイド

性抗炎症薬、トリプタン、エルゴタミン、吐き気止めなどがあります。特に、トリプタン製剤は、予防投与ではなく、発作が起こったばかりの時期に使用することで効果があるお薬です。

片頭痛発作が月に2回以上、あるいは生活に支障をきたす頭痛が月に3日以上ある場合には予防療法が検討されます。予防薬としては、抗てんかん薬であるバルプロ酸や、抗うつ薬であるアミトリプチリン、Ca拮抗薬のロメリジンなどが使用されていますが、後述する新規の予防薬も使用できるようになりました。

○新規の予防薬について

発作予防の治療薬の選択には、2~3か月程度の期間をかけて効果の判定を行い、効果がなければ他の薬剤に変更していきます。最近、新たにカルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）という三叉神経から放出される片頭痛の疼痛発生機序に関与するといわれる物質に着目した薬剤が発売されました。

成分名	商品名	用量
＜抗CGRP抗体＞		
ガルカネズマブ	エムガルティ	初回2本、その後1本を1ヶ月毎
フレマネズマブ	アジヨビ	1本を4週間毎または3本を12週間毎(自己注射は1本を4週間毎のみ)
＜抗CGRP受容体抗体＞		
エレヌマブ	アイモビーグ	1本を4週間毎

この薬剤を使用できるのは、片頭痛発作が月に複数回以上発現している、1か月あたりの片頭痛日数が平均4日以上ある、非薬物療法及び急性期治療を行っても日常生活に支障をきたしている、既承認の発作抑制薬で効果が得られない患者さんです。従来のお薬に比べて、高額であるため治療費が高くなってしまうことが懸念されますが、自宅で皮下注射が可能であり、通院の負担の軽減にもつながります。

頭痛に関する不安点や疑問点があれば、医師または薬剤師までご相談してください。